明治四十五年三月一日發行（毎月一回發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第九巻第三號

目次

◎境遇（一）……小橋三四子
——△（談叢）▽——
◎家庭訓（四）……宮川經輝
◎弱者の强者（一）……安部清藏
◎現今の日本婦人（一六）……マグドナルド
——△（傳記）▽——
◎ファンネ、クロスビイ孃（二〇）……小此木松子
——△（聖書研究）▽——
◎耶蘇の說きし救（二四）……柏井園
——△（文苑）▽——
◎聖盃（二八）……白井胤祿
——△（會の消息）▽——
△新幹事の來朝△日本基督敎女子青年會△萬國女子青年會への獻金△東京基督敎女子青年會△米子基督敎女子青年會

日本基督教女子青年會發行

女子寄宿舍

基督教女子青年會は

牛込區納戶町四十五番地

小石川區水道町二十八番地

の二ヶ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲に及ぶ限りのお世話を致して居ります

右の寄宿舍は門倉ふじ子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります。東京に家庭又は適當の保護者のない方々をして家庭に於けると同樣に勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります

入塾希望の御方は願書を監督者門倉ふじ子氏或は大西絹子氏に宛てゝお送り下さい。

尙同舍は一時の宿泊も許しますから、講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を計る事が出來ます。

寄宿舍委員長　今西糸子

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關誌也。

一、「明治の女子」は一部分郵稅共金五拾錢、一部郵稅共金五錢とす。

一、日本基督教女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子
副委員長　岡見慶子
記錄書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員
萬國學生基督教同盟會委員　河井道子

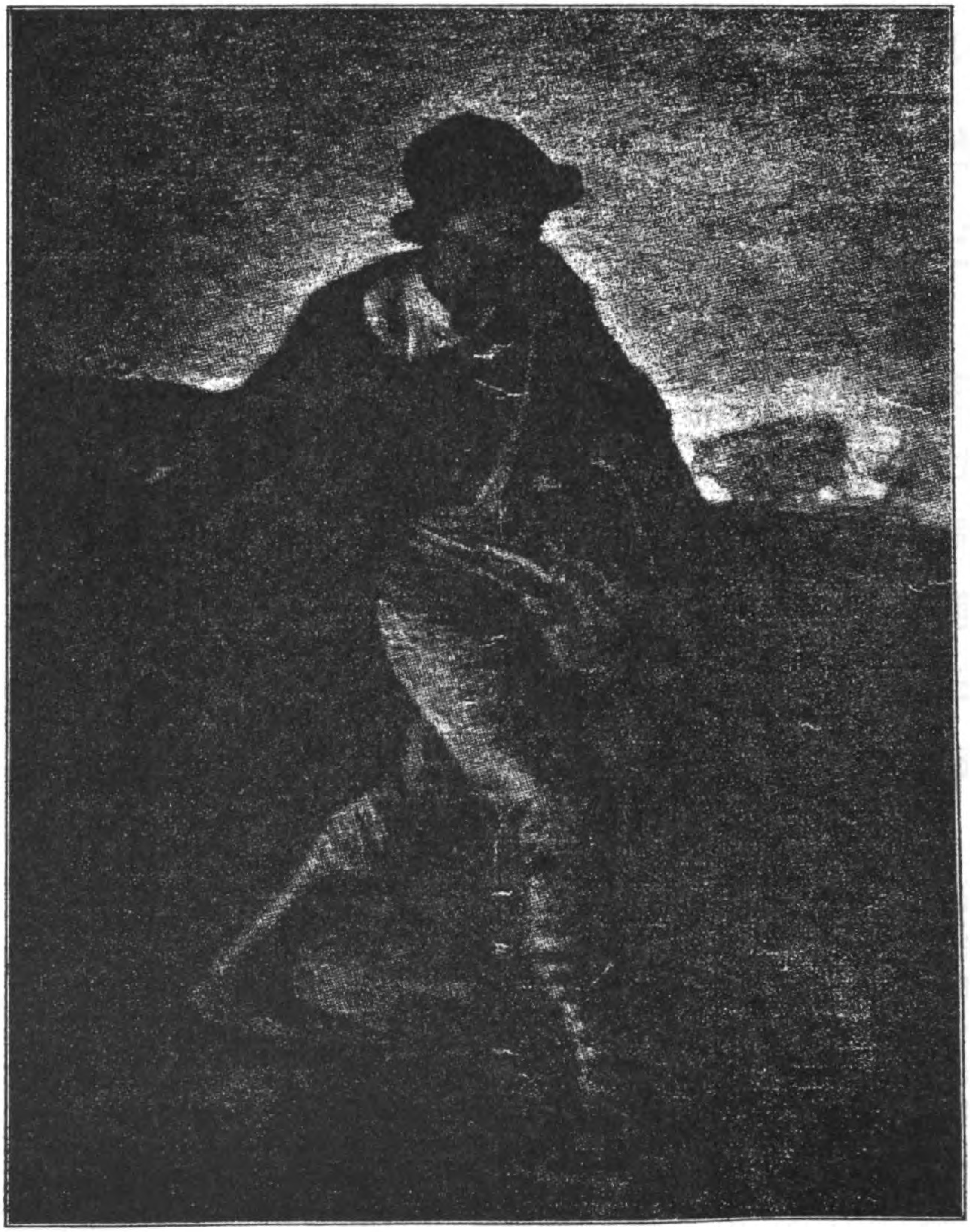
東京在住委員
エ、ピー、ウエスト　宮川すみ子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　サラ、エリス
フィイシャー　小此木まつ子

地方在住委員
大阪　ター、ツースツラム　京都　佐伯小糸
京都　デントン　名古屋　ウインウイルソン
廣島　エス、ピー、ゲインス　大阪　荒木中子
函館　エム、アブラウンロー

日本基督教女子青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エム、エル、マンウ
同　ジイ、アアル、ヲトネ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

播者　ミレエ筆



△十五頁說明參照▽

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第九巻第三號　（明治四十五年三月一日）

境遇

小橋三四子

○現今瑞典に於て人生問題、教育問題に關する哲學者として名高きエレン、ケー女史が、嘗て歐米の社會を動かしたといふ「二十世紀は兒童の世界」といふ名著に於て、大層兒童の爲めに氣焔を擧げて居ります。その第一項に「子の親を撰ぶ權利」と題して人は生れぬ以前にその親を撰ぶ權利を有すべき筈であるとて、今日の結婚制度の缺陷を指摘し、眞の愛情によりてのみ夫婦の存在すべきを論じ、兒童も亦その境遇を出發點として、世に出づべきであるといふ事を、大膽な形式で論じて居ります。同女史の議論は古きを破つて、新らしき理想を打建てんとするが故に或個所は爆烈彈の如く極めて過激な趣のあるのを免かれません。然し物の根源に溯つて論じてある所は誠に尊敬するに足るものがあると存じます。

若し人に境遇を撰ばなければならぬといふ警告を與へんと欲するならば、學校生活を終つて、社會に初めて出でんとする時に於てしても、もはや遲くあります、學校生活を初めんとする七八歲の兒童に向つて、之れを注意しても、いまだ早いとは申されません、初生の初より、否生るゝ以前、その兩親の結婚當時に既に己にその子の境遇の大方は定めらるゝのであります。それ故に人に完全なる境遇を與へんとならば、男女の結婚が根本の意味に於て正しくなければならぬと申すのであります。誠に道理ある事であります。然しこれは境遇といふ問題を離して取扱つた場合に申す事であります。我れ我れ自分自身としては、また父母、教師先輩として、人を保護する立場からは、今與へられた境遇を最もよく啓いて行く樣に心掛ける工夫を致さねばなりません。さもなくて、只過去に溯つて外なる境遇を省れば、多くの人が我れならぬ人に向つて不滿の聲を放たなければなりますまいが、それは誠に徒勞であると申さねば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なりません。○

世の中は度々間違つて進んで行く樣にも見えます。誤魔化しの上手な人や、世間に阿る人が、割合にすらく\と容易く世渡りをして行き、虚榮家が崇められ、全く愛なき事業家が、教育事業、社會事業に成効する時、又は誤れる主義が權勢の爲め、或は多數の雷同の爲めに行はれて行く時、無邪氣の青年男女をしてどれ丈け失望落膽さするやも判りませぬ。否失望落膽さする斗りではありませぬ、何れが果して正しき主義であるか、世の中には到底誠實といふ事は見られない事であらうか、わが取るべき道は何處を撰んだならばよきかと思ひ惱むでありませう。かゝる場合に多くの人は容易き道に流れ込み、遂に世間染みた者となり終るでありませう。もしこの時「願はくば我れに正しきを撰ぶ力と、如何なる困難、迫害にも堪へて、正しき道を誤りなく踏み行く勇氣とを與へ給へ」と祈らるゝ人は、如何に幸福な事でありませう。かくして人はその境遇を啓く事を得て、最後の勝利者となる事が出來るのであります、故に我れ我れの境遇を啓く力の根源は、先づ神を知るといふ事にあると堅く信じます。○

歐米のクリスト教國ですらも、其の子女が父母から與へられた信仰が自分のものにならうとする過渡期、即ち大學時代に於ける青年男女は、非常なる危險の狀態に陷り、懷疑煩悶を重ぬるに至るのであるが、彼れ等は曾て神を信ずる健氣なる經驗を持ち、社會にはまたこれ等青年の親切なる指導者があつて、常に彼れ等を危き淵より支へて居るが故に、再び神の御膝の下に、新らしき心を以て立ち歸り得る者が多いと云ふ事を聞きます。世の兩親や、教師が、子女の宗教心を育つる事に、留意しつゝも、なほ子女の餘り幼い時から宗教心を持たする事は却つてその子の個性を妨げる恐れは無きか、自ら求むる時に至つて、宗教に立ち入る事が却つて後々力あるものとなりはしないかと懸念さるゝ方々もあります。然し家庭や日曜學校に於て、幼き時受けし教へ、そは誠に力あるものであります。長じてたとへ一時は種々の説、或は世間の有樣に迷はされ、神を離れし時もなほ、折々は讃美歌を故郷の如くなつかしみ歌ふでありませう。深くわが血に潛める聖き教へは、惡を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

憎み、高き理想を求めて止まぬてありませう。かくてこの人の懐疑、煩悶は、却つて生涯の躓きとはならずして更らに一段進歩の階梯を築くものとなる事が出來、必ず再び神の慈顏を仰ぐ日があるのであります。かのイエス、クリストの播者の吡喩にも、播ける時路傍に遺ちしものは鳥の爲めに啄み盡され、土うすき磽地に遺ちし種子は、直ちに萌え出てたが根なきが故に日に當るや否や枯れて終つた、棘の中に遺ちし種子は、棘に覆ひ閉ざされて、その成長を妨げられた。獨り沃壤に遺し種子のみは、三十倍、六十倍、或は百倍の實を結んだと云はれて居る。神は等しく我れ等の心の中に、美はしき花もにほひ、實も結ぶべき種子を時かれつゝあるのであります。これを受け納るゝ沃壤は、幼き時から心の畑の耕されたもの、即ち幼き時から神を知る事を覺えたものてなくてはなりません。

〇

讀書によつて墮落するやうては何の役にも立たぬと申す事は一寸卓見のやうに聞えますが、かく申す人が、父母となり、保護者の位置となると、大抵は讀書は非常に注意して撰擇すべきものであると申すやうになります。それは讀み物位とくつてみくびつて居つたが、その文字の感化は不知不識の間に自分を誘惑し、墮落さして居つたのを多くの人が氣付くからてありませう。、思想はわが境遇を啓く大切なる鍵てあり、その思想は讀書によりて養はるゝ事が多いのてあります。我れ我れはこれを單に活字と見ずに、恰も明友を選ぶ如く注意して取扱はなければなりません。我れ我れがもし田舍町を歩いて野卑な歌を聞いたならば、耳を覆ふてこれを避くるてありませう、常に高尙なる、正しき書物に親しんで居るものは、自然にその撰擇力が與へらるゝやうになります。

〇

野蠻、半開の土地に住み、未開の人々を友として一人居つても、われ〱は常に同じ主義の團體に連つて居つたならば、それは丁度海底に潛ぐる人が、糊糢管を以て空氣を送らるゝと同じく、定めし不屈不撓の勇氣を與ふるよすがとなる事が出來るてありませう。外國の基督敎主義の人々が、布敎の爲めに働らくに當つてや、往々誰れ一人友もなき、また神をも知らぬ人の仲間にあります。この人は絕えず熱

斷を以て、諸種の障碍に打勝つて行くと共に、また實に彼れ等の連る團體の後援の力による事が多いのであります。これ等團體に連る多くの人々は同じ心を以て互に痛み、互に喜び、精神上に物質上に助け合ふ事は非常に多いのであります。彼れ等に限りなき力の湧き來るのも、誠に故なき事ではありませんではありませぬか。

○

今や多くの青年諸氏が學校生活を辭して社會に初めて出てんとする期も近づきました。境遇を啓く力の必要を切に感ずるのはこれからで御座いませう。一言を餞別して、その門出を祝さんと欲し、端なくも言ひ古したる言葉を弁ぶるに過ぎぬことゝなりました。然し千萬言を云ふは易く、一言を行ふは難き事であります。人は同じ事を幾度か繰り返へして云ひ、幾度か繰り返へして聞く中に、實行は自然に伴ふやうになるて御座いませうと、敢へて自ら安んずる次第で御座います。

談叢

家庭訓

宮川經輝

なんぢら何事も人に事ろが如くせず、主に事ろが如く心より之を行ふべし（哥羅西書第三章二十三節）

▲キリストの教へは凡て根本的

キリストは不思議にも家庭の事に就ては餘り多くの教をお殘しにならなかつた。夫はイエスには家庭がなかつたからであらうかと考へて見たが、成程御自身には妻帶はなされなかつた、けれどもヨセフとマリアの間に生れた子供等も澤山あつて、永の歳月の間マリアが其子供を教へ育てる模樣ぐらゐは知つ

て居らつしやつたのであるから家庭の事には充分の經驗を有つて居らせられた事は云までもない、御自身が妻帶をなさらなかつたからして、家庭の事に就て餘り敎へ給はなかつたと云ふ事であれば、使徒パウロも妻がなかつたのであるから、同じやうに家庭の事に就ては何も云はない筈であるのに、パウロは度々家庭の事を申して居る、殊に以弗所書の五章と哥羅西書の三章の十八節以下に於て詳しく家庭道德の事を敎へて居る。キリストが云はれなかつたと云ふのは何う云ふ譯であつたか能く分らないが、さう云ふ微細な事に渉つては何事に對しても餘り多くの敎をお殘しにならなかつた、云はゞキリストは根本の根本、原則の原則と云ふべき事を示して居らつしやるやうに思ふ。其イエスがお示しなされたる原則の中に自から家庭の敎は含んで居るやうに思はれる一つ私か氣付いた事はイエスは心を淸むるの途を皷吹なされた、山上の說敎を見ても其事が度々繰返されてある、心の貧しき者は福なり心の淸き者は福なり、又爾曹の義しきこと學者とパリサイ人の義しきよりも優れずば神の國に入る能はず、神の心に叶はない、施與をする、祈禱を捧ぐる、斷食をやる、其總ての場合に於て形の事ぢやあない心を淸めなければならないとお敎へになつた、當時の猶太人は外形の事を喧しく云ふて內部を疎略にした、曲つた心を有つて居やうが汚れたる心を有つて居やうがそんな事は餘り問はない、規則通りに帽を冠り服裝を整へて、さうして士君子のやうな禮儀を守つて居りさへすれば、先づ夫で紳士淑女たる事が出來ると云ふやうに考へた、夫てキリストは大なる誤解だ、夫は大なる間違ひだ、肝腎要なる事は此胸だ、心が正しければ、心が淸くありさへすれば夫て宜い、非常なる勢を以て表面に流れつゝある當時の弊風をお破りなされたのである。

▲家庭は眞に修養の場所

若し夫諸君が馬可傳の七章の一節から二十三節までを繙いて、其間に敎へられてある事を玩味なされたらば、キリストの御趣意のある事が明かに分るだらうと思ふ、事の發端は弟子方が手を洗はずして御飯を食べた、夫を學者パリサイ人が咎めたから、イエスが爾曹は碗の外部だけを洗ふ者だ、口から這入るものは厠に落ちてしまふぢやあないか、そんな事は何も頓着するには及ばない、心の中を淸めないか、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

心の中が汚れて居るから、口から色々樣々の汚い物が出て來て世の中の風敎を破るのである、心が淸くならなければ到底駄目だと云ふ事を烈しい勢を以てお敎へになつて居る一言にて云へばキリストの敎は心を正すと云ふ、どの敎であつても心は何うでも構はない、表面さへ宜ければ宜いと云ふ事は決してない、孔子の敎でも『古之欲明德於天下者先治其國欲治其國者先齊其家欲齋其家者先修其身欲修其身者先正其心欲正其心者先誠其意』と云ふ、誠意誠心矢張り心から改めて行かなければならない事を敎へてある、けれどもどう云ものか孔子の敎を奉ずるところの支那でも朝鮮でも、氣の毒なほどに表面に流れて、遂に國は滅びてしまつた、我日本も同じやうに表面に走せたが、少し日本にはまだ眞面目なところがあつたから今日の狀態を保つ事が出來て居る、そこで心を正しうすると云ふ敎へ即ち、何事も心底から淸められてやらねばならぬと云ふ敎は何所て修業をするか、諸君、心底から淸められて修養をすると云ふ事は是は家庭である、人間は社會に立つた時はどんな僞善でも出來る、英雄が人の心を攬ると云ふ事を云ふ、夫は英雄が世の人々を欺すと云ふ事である。社會に對した時には大分俗に云ふ、ぺてん、が利く、世の中の人は兎も角も欺す事が出來る、胡麻化す事が出來る、或は各自が夫々の事業に當ると云ふ時も多くの場合多少胡麻化して人を率ゐて行く事が出來るであらうが、家庭では僞善を許さない、家庭では胡麻化しは利かない、家庭では何うしてもさう云ふやうな事は出來ない、何となれば家庭では赤裸々、多くの眼が何の隔りもなくして能く見て居る。父母は子供等が知るまいと思ふて僞善をやる、或は胡麻化しをやる、子供等の小さい眼は能く夫を見て知つて居るばかりぢやあなく、其親の僞善、親の胡麻化しがどれくらゐ惡い印象を子供等に留むるか知れない、ナニ自分の家には小さな者はないからして其段は樂なものだなどゝ云ふやうな橫着な考を持つて、僞善をやるか胡麻化しをやるかすると、女中や書生がナニ是は怪からぬと思つて氣を注けて見る、夫が軈て召使の者をして主人夫婦を侮らしむる所の源になる、ナニ内には女中も何にも居ない、差向ひの夫婦だけだからして構はないと云ふ人もある、妻が良人の胡麻化しを見て矢張り心の中に良人を侮る、妻が胡麻化せば良人が不埒な女めと心の中に思ふ、夫が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭紊亂の源になる、家庭だけは何所までも神聖何所までも清潔、何所までも眞實でなくてはならぬ、家庭の神聖を保ち家庭の清潔を保ち、家庭の眞實を保たうとすれば此胸が清まらねばならぬ、胸が清潔であり眞實でなくてはならぬ、キリストは夫をお敎へになつたのである、使徒パウロは其キリストの深い思召、尊い御趣意のあるところを能くも味ふて、矢張り何事も心からしなければならないと云ふ事を勸めた、譬へば哥林多前書十三章を讀んで見ても、焚るゝ爲に我が身を與るほどの信仰があつても、若し愛がなかつたならばと書いてある、彼れは愛の心がなかつたならば算ふるに足らぬもの、天の使者の如く辯舌を振ふても、若し愛がなかつたならば算ふるに足らぬ、羅馬書の十三章には良民として國家に盡さなければならないと云ふ事を敎へてあるが、彼所ても只政事を執る者の怒りを恐るゝ心から從ふものぢやあ駄目ぢや、良心から從はなければならないと示してある。

▲哥羅西書に現れたる家庭訓

私は今朝此哥羅西書の家庭に關する敎を讀んで成程パウロは良いところに氣が注いたと、深く其事を感じたと云ふのは他ぢやあない二十二節に誠心を以て神を畏れて從へと申して、更に二十三節になんぢら何事も人に事るが如くせず主に事る如く心より之を行へ、誠の心と云ふ心より之を行ふべしと云ふ、諸君、道德と云ふものも煎じ詰むれば心の働きに外ならない、品性と云ひ人格と云ひ煎じ詰むれば心の現はれに他ならない、宗敎と云ふものも之を煎じ詰むれば誠の心を以て神を敬ひ恐れると云ふ事に他ならない、其誠の心を養ふと云ふには是は學校でゞも社會でも、諸君の店でも役所でも事務所でも何所でゞも出來るであらう、けれども眞個に心を養ふと云ふには是は家庭である、何故家庭かと云ふに我々に取つて最も大切なるものは良人の方から云へば我妻であらう、妻の方よりは、良人であらう、親であれば子であらう、事務所で遣損い、店で失敗する、社會に立つて立場がないやうになると云ふ事も困つた事であるけれども、家庭に於て夫婦の間が能く行かない、親子の間が能く行かない、實に仕方のない子供が出來たと云ふ事であつたならば、看る〳〵親の顏に皺が寄り白髮が生え、僅かの間に親は老衰してしまふところを見ると、是程人間に大なる苦痛はない

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其大なる苦痛を前に控へて居るものだからして、親たる者が家庭だけは一ツ立派にやりたいと云ふ心を起し、そこでキリストもパウロもそこの道理からして、家庭に於て心の底から清まらなくちやあならぬ家庭に於て神がお悦びなさるゝやうな良い心を養はなければならぬと敎へられた、何うしたら其心が養へるか、亞米利加邊には家庭を嫌がる人が澤山ある市俄古で私は藤田と云ふ領事の家に泊つて居つた。其所の家から見ると八階か九階もあるやうな非常な高い且大きな建物があつて、夜になつて電燈の光が眼映きまでに輝いて居る、不圖其家に眼が注いた、彼れは何ですかと聽いたらば獨身者の住居と云ふ、妙な名を付けたものだが、彼所には誰が住んで居るだらうかと云ふと、困つたものだ、妻を持つのは邪魔だから、生活の上にも其他色々な點に於て蒼蠅いから夫で妻を有たない、男の獨身者が寄集つて彼所に住んで居ると云ふ、成程亞米利加の女を妻にしたら蒼蠅いだらう、邪魔だらう、マア男は女の鞄持ちと云ふ、外に出る時はさう心得なくちやあならぬ、夫から出入には女の草履取りと心得なくちやあならぬ、靴まで穿かせてやらなくちやあならぬ、蒼蠅くて堪らない、妻を貰ふ[illegible]嫌だから獨身者の住居と云ふが其所へ出來た譯である、さうすると女の方では男の向ふを張る積りではあるまいがオールドメードと云ふのが澤山居る、ゆかず嬬婦、生涯獨身者、何うも獨身者が一番宜しい、男なぞ云ふ者に嫁くと、子も持たねばならぬ、子が出來りやあ育てもしなければならぬ、獨身で居りさへすればある限りの金を自分の榮燿の爲に使ふ事が出來ると云ふ、夫で女のゆかず嬬婦と云のが澤山ある、凡そ世の中にあつてゆかず嬬婦ほど何も嫌なものはない、非常に性質が僻んで居る、尤も中には宜い人もあるけれども、普通から云ふと亞米利加邊りのゆかず嬬婦と云は眞個に不可い嬬婦である、夫が四十ぐらゐになつたら殆ど手の着けやうのない阿婆磨者となる男の方も一體から云ふと氣隨者、圭角の多い嫌な種類である、修業が出來て居らない、一方から云ふと面倒いと云ふ蒼蠅いと云ふ、其面倒い蒼蠅い事をやるのが夫が價値である、夫で修養が出來る、妻を迎へる直きに結構な家庭が出來ると思ふたら、間違ひ、なか〳〵出來ない、三年五年十年辛抱をして初めて圓滿な家庭が出來る、其間は良人も泣き妻も泣く、泣いて初め

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て宜いものが出來る、初めから泣かない積りてあつたら出來やあしない、ア、、嬉しいと思ふのは半年か一年の間、夫から後は辛抱と云ふ事になる、子供が出來る、一番に蒼蠅くて堪らない、御婦人や何ぞは夜の眼も睡られぬと云ふ譯、子供が出來ると寒空に冷たい水で洒洗濯も餘計にしなければならぬと云ふ譯て、女中を置いたら宜いけれども、又其女中はなか〳〵子供の多いところには居つて呉れない、此所に至ると非常に苦痛てある、其苦痛が又非常なる藥となる、夫で提摩太書てあつたか、女は子を產む事に依つて救はるゝと書いてある、子を產むと云ふ意味は育つる事に依りてと私は替へて宜からうと思ふ、女は子供を育つる事に依つて救はれる男も矢張り子供の面倒を見る事に依つて救はれる。そんな事は面倒いからして、獨身者が一番宜い、ゆかず孀婦が一番宜いと云ふ事てあつたら其人格は出來ない、夫て、神が人間をお造りなされた初めに男と女とに造つて、此所に家庭を持つやうに制度をお始めになつた爾來今日に至るまて幾千年を經ても、矢張り人間は家庭を有たなくちやあならぬと云ふ事になつて居る夫が蒼蠅い、夫が面倒いと云つて獨身生活を送るなど、云ふ事は以ての外の心得違ひてある、其面倒を見る事に依つて心が清まる、世の中でも面倒は見らるゝぢやあないかと云ふに夫は又違ふ、世の中で面倒を見る事は家庭て見るやうな面倒と違ふ、私共の生涯に於ても諸君の生涯ても同じ事、心底から涙を溢すやうな事は矢張り家庭てある、眞個に苦むのは家庭問題てある、其代りに嬉しい事も樂しい事も矢張り家庭で經驗をする、苦痛の多いところには快樂も多い、喜悅の多いところには悲哀も多い、夫で私は家庭を安樂の場所と思ふのは間違ひだと云ふ持論だ、家庭は修養の場所、一生懸命に修養すべき場所てある

▲妻たる者の心得

そこで今此所を讀んで見ると、妻なる者よ其夫に從ふべし、此は主にある者の爲べき事なり、妻は良人に從へ、何でもない事のやうに見える、良人が敬ふに足るべき信頼するに足るべき、三國一の花婿と云ふやうな人を迎へたならば從ふ事は何でもない、誤つて獸類見たやうな良人を迎へたらば、從はないと鐵拳てやらるゝものだからして、從ふ事は從ふけれども夫は屈從と云ふもの、屈服と云ふものである

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腹の中ではもう堪へられないが表ばかり從ふて居る苦しい、私は凡そ是くらゐ苦しい事はなからうと思つて居る、左らば離縁したら何うだと云ふのに離縁は不可、さう云ふ者に取當つたのは修養せよと云ふ事だ、是くらゐに修養して居るのに、まだ男は獸類のやうな荒々しい振舞をする、まだ此方の修養が足らない、マア少し修養をやれと云ふ、十年十五年修養をやつて居る中に、良人も遂に感化されて立派な者になつた時に、初めて心から從ふ事が出來る、從ふべしと云ふても何でもない、女は男に從へと男の方から云ふかも知れない、御婦人に取つてはさうでない、良人に從ふほど苦痛はない、夫から良人の方は何うだ、其妻を愛すべし、妻を愛せよ、是は何でもない事だが、我儘氣儘をする妻、時々何うも良人が吃驚するやうな事を出來す妻、夫を愛すると云ふ事は男の方ぢやあ非常なる苦痛、けれどもさう云ふ女に取當つたならば是は修養せよ、ソクラテスは修養の爲に希臘第一の邪慳女を娶つた修養する爲にこんな妻を與へられたと思つて修養しなくちやあならぬ、離別しちやあ不可、さうして此方の修養の結果、其妻を宜い者にすると云ふ事である、心底から其妻を愛する事の出來るやうに其妻を造り直すと云ふ事夫が修養である。

▲夫たる者の心得

もう一ツ此所に書いてある、苦を以て待ふ勿れと云ふ是は良人たる諸君に能く氣を付けて貰ひたい、此苦と云ふ字は刺で終始妻君を突くやうな事をするなと云ふ、叱る時は叱つても宜い、戒むる時にはドッシリと戒めても宜い、けれども苦を以て待ふと云ふのはイヤ御飯が焦げたとかお汁が水臭いとか魚の燒きやうが足ないとか、詰らない事で針の先きで突くやうに弄る、叱らるゝのは介意ない、彼所が不可之を一つ直さなくちやヤならぬと時偶エライ勢で戒むる事は宜しいけれどもチク〱とやりをると夫で御婦人達が宜くならるゝかと云ふと、マア内の主人は小言ばかりを云ふあらあもう小言が病氣なんだ、お小言が出ると又病氣が起つたなと思つて居りますと云ふ女が隨分澤山ある、御婦人の方ぢやあ夫を病氣と見てしまふ、決してそんなに弄るのぢやあない針の先で突くやうな事はあるものぢやあない、一ツ此點ぞと云ふところを摑へて切込まなくちあならぬ、さうすると御婦人の方でも絶えず突かれるのと違つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てグッと應へる、神經衰弱を起して病院住居にはならぬやうになる、もう一ッ間違ふと弄つた結果癲狂院に入れなくちやあならぬやうになる、決して弄るものぢやあない。

▲子たる者の心得

夫から其次に子たる者よ爾曹すべての事二親に從ふべし、無論だ、是主の悦び給ふ所なり、親は天に代つて子を育つるものだ、天の神を眞個に代表して居る者は親の心である、神の御代りだと思へば私共親には能く從はれる、此事に就ては私は多く云はない、次に父なる者よ爾曹の子を怒らする勿れ恐くは其氣餒んと示してある、子供を怒らす勿れと云ふのも今妻君を苦を以て待ふなと云ふのと同じ事、何でもない事を叱る、汝は何をしをる、恐鬪々々するな立つて居ると何故其所へ立つてる、坐つてると何故坐つてる、寢床へ這入つてると何故寢ると云ふやうな風に叱る、勉強すりやあ本ばかり讀んで仕様がない、勉強せずして居るとそんな不勉強な事では不可と云つて叱る、何方から云つて實に不理屈な事を云ふて親が子供を叱る、神經質で親が子をさう云ふやうに叱る、子供は叱られて親が叱るのだからして少し理屈があるかと思つて、胸を沈めて考へて見ても些とも理屈がない、立てば立つと云つて叱る、坐れば坐ると云つて叱る、寢れば寢ると云つて叱る、本を讀めば本を讀むと叱る、讀まなければ讀まないと云つて叱る、さう云ふやうな親に取當つたならば子供の氣が餒ると云ふ、餒ると云ふは子供が阿呆になつてしまふ、理屈が立たないからして考へやうがない、仕様がないやうになる、夫では詰らない者になる、氣が餒とるると云ふは阿呆になつてしまふ、手の着けやうがなくなる、先日或方が男の子が生れたが、何か之を育つるのに心得となるべき事を書いて呉れろと云ふお賴みであつた、夫て私は父母其子を養ふ時に寛嚴宜しきを得ざれば之を賊ふと書いた、父母が子供を敎へ育つるのに寛嚴宜しきを得なければ不可、餘り寛にし過ぎても子供を嬌に育てゝ損ふ、又今のやうに嚴し過ぎても子供を賊ふ、寛と嚴と丁度宜しきを得て行かなくちやあならぬ、神經質の親の子に碌な者は出來ない、子供を養はうと思へば親の神經質から直して行かなくちやあならぬ、戒むる時は戒むる、賞める時は賞めると云ふやうに子供に對する事がなかつたならば到底駄目である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲主僕たる者の心得

夫から其次に僕なる者よ凡のこと肉體に屬る主人に從ふべし人を悦ばする者の如くたゞ眼前の事を務ることなく誠の心を以て神を畏れて從へとある、是は下僕たる者が主人に對する心得である、即ち下僕と云ふは何も女中に限つた事ぢやあない會社員は會社の下僕、銀行員は銀行の下僕、政府の役人は是は陛下の下僕である、凡そ人は使はるゝところの者は眼前の事だけに心を寄せずして、天の神に使ふるやうな心持を以て使へて行くと云ふ、更に最後に主人なる者よ爾曹も亦天に主ある事を知ば義に從ひ公平を以て其僕を待ふべし、諸君、下僕の中には忠僕と云ふ事を聞くが、主人の中に眞個に宜い忠主と云ふ事を聞いた事があるか、忠僕と云ふからして、私は忠主と云ふ事が欲しい、忠實なる主人、眞心を以て家來に對する主人、去が欲しい、實に家庭の內こそ修養の絶好場所ぢやァあるまいか。又妻は良人に從ふ、兩親を悦ばせると云ふ、下僕たる者は利益の事だけでなしに、心底から神に從ふ心を以て主人に仕へる、實に修養を意味するのではないか。基督教は家庭の修養を高調したものである。よく其邊の深意を味はれんことを望む。

弱者の強者

安部清藏

何故幼兒が可愛いのでしやうか、犬の兒でも豕の兒でも、乃至熊や虎の兒でも、大凡小供の時は皆可愛いのであります。ソレが少しく大きく成ると可愛さが減つて來る。遂には慊なもの、怖ろしいもの、惡むべきものとも成ります。何故幼稚いものが可愛いのでしやうか、或は天地の神秘と云ふて仕舞へばソレまでゝありますが、私共はモ少し深く研究して見たいのであります。

親が子のために命を捨てると申しましても、子に對する可愛さが無かつたならば、決して命を捨てゝ

子を助けると云ふやうな事は出來ませぬ。私の妹が先年死去致しまして、其遺して置いた男の子をしばらく里子にやつて置いたのでありますが、其里親なり老人夫婦なりは、非常に此小供を可愛いがりまして、此春引取りに行きました時は、老人夫婦の如き全く掌中の玉を奪られたやうで、其當坐はボンヤリして居つたと申すのであります、何故血を分けたものでも無いのに、斯く愛情が加はるものでしやうか聖書て天國に在るものは皆幼兒の如きものであると言ふてありますが、斯くの如き自然に愛らしい幼兒のみ居つたならば、ドレ程樂しい事であらふかと思はれますが、偖て近代の文明國では、反つて此小供を産む事を避けると云ふ風な傾向があると申します

勿論實際の事を言へば、幼兒とて何時も可愛い許りのものてはありませぬ泣いたり無理を言ふたり、病氣をしたり、悪戯をしたりする時は、隨分憎らしくなるものであります。若しドウか云ふ事で、小供を愛する情が起らぬ場合には、小供程厄介なものは無い事になります、全體幼兒を以て天國の模範とせられたのはドンナ所を主眼としたのでありましやうか。

私の妻は娘の時分には、餘り小供が好きては無つたのでありますが、小供を持つてからは矢張通常の母の如く、小供を可愛がり、私が外出する時に車の跡を小供が追つかける有樣などを見ては、若し自分がアンナ風に跡を追はれるやうでは、兎ても旅へ出る事などは出來相に無いと申す位でありました。是れは所謂お腹を痛めた爲めでありましやうか、亦た他に何にか源因があるものでありましやうか。

私は小供ばかりでない、奇麗なもの、崇高なもの目覺しいもの、珍奇なもの等に出くはして、不覺不識是れに引き着けられる時、何故斯くまで動かされるのであるかと考へるのであります。佛教では斯くの如く動く心を執着心と申して、是れを捨てる事に骨を折るのでありますが、基督教では必ずしも之れを捨てるのではありませぬ。併し或場合には肉慾と云ふ名の下に斯くの如き愛着心を排斥する事もあります、故に斯くの如く動く心は、之れを悉く善いものと見て仕舞ふ事は出來ないが、人間の裏に存する大なる力として、之れを研究する必要はあると思ひます。

私の信ずる所に據れば、天地間の森羅萬象は悉く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

之れを愛する事が出來るものと思ひます。唯或ものに對しては之れを憎み、慊ふと云ふのは、畢竟天地萬物は素と是れ一體なるが故に、必ずや終に一體と成るべき其進行中に於て、偶々一體一如となり得ない場合に、之れを憎むとか慊ふとか云ふ事に、現はして仕舞ふのであらふと思ひます。故に憎んで居つたものも慊ふて居つたものも、少しく心を止めて、其實際を知る時に、決して慊ふ必要も憎む必要もない事になります、否進んで之れを愛する事が出來るやうになるのであります。唯併しながら何故或ものゝ丈けが、未だ研究もしない中から、自然的に人の愛を惹く事に成るかと云ふに、之れは天地萬物の本體たる神が、斯くの如き窓を通して、我等人類を一味平等の天國へ誘ひ給ふと言ふやうな譯のもので、是れ等を先づ手がゝりとして、人は段々愛の生涯に深く辿り行く事が出來るのであります。則ち人間は、何かの機會に由て、樣々な方法に由つて、愛を養ふやうにせられて居るので、夫婦となり親子となり兄弟となり姉妹となるのも、畢竟は此大目的たる愛に到着するための道行きに外ならぬのであります。天國に於ては、最早斯くの如き肉體的の關係なくして只靈と靈と互に相愛するものとなるのであります。此靈と靈と互に相愛する事換言すれば靈と靈と一致和合する事が、人の第一に求むるもので、又天地萬物の自ら歸趣する所であります。

靈と靈の交りは、實に靈妙不思議なものでありまして、例へ同室に居り、同じ机に向つて居つても、全く何等交通する事が出來ない場合もありますし、又何百里離れて居つても、容易く交通する事も出來る場合があります。所謂以心傳心と云ふ風で、無言の間に相感應する事が出來ます。此感應の相通する間に於て、自然に愛が起るので、幼兒の如きは、其最もよき實例であります。言はゞ靈の良導體であつて、すぐに其感應を引き起すものであります。

ソコで此靈の感應を引き起す良導體は、其性質から見る時は、極めて弱いものであるが、靈の感應を導くといふ點に於て、頗る強いものとなるのであります、譬へば小さい一本の鉢金が、電氣を通ずる事によつて、莫大なる力を現はすやうなもので弱さものが反つて強くなるのであります。

婦人は弱いものであります。併し其弱い所に強い力が現はるゝのであります。靈の力を宿す器となる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事が出來るので、其結果は實際思ふたより偉大なものであります。

聖書に「柔和あるものは幸福なり其人は地を嗣ぐ事を得べければなり」とあり、又保羅は「我弱き時に強し」と申して居ります。是れは靈の力を受け愛の焰を造り、是れで以て如何なる強敵をも退治して遂に此世を支配するものとなる事を言ふたものであります。

今や歐米に於ては、政治上の權力を得て婦人の強みを增し、其家庭と子女を保護せんと企つる傾向が仲々盛んなやうでありますが、果して參政權を得てソレて此世を支配する實力を得る事が出來るかドウか、ソレは問題であります。

或は反つて強い男子を支配する力を失ふ事になるかも知れませぬ。

日本の歷史には、天照太神が其女性たる德を以て高天原を統治し給ふた事が記してあります。日本の國を治める理想は、武力や政權にあらずして、寧ろ女に由つて發揮された柔和なる德、天照す太陽のやうな德を以てするのが理想であります。コレは基督敎の理想と相似たるもので、實際の所、眞正の強者となるには此外に道はないのであります。

今や十字架に死し給ふたる弱者基督は、全世界幾千萬の人を支配する靈となり給ふた。世界の運命は女と小供に由つて支配される事は、言ふまでもない話であります、此時に當り婦德を磨くのは、一日も等閑に附してはならぬ事柄であります。

口繪說明

ミレエは佛國十九世紀の有名なる畫家で、多く田園の生活を繪き、無韻の詩趣と共に、聖僧の說敎を聞くの趣があると申されます。口繪に揭げたる「種子蒔く人」は其の筆であります。今此處ではこの繪の價値は申しません。種子蒔く風習の日本と異つて居る所に御注意下さいませ。それは丁度キリストが種子蒔きの比喩を以て弟子等を敎へられた頃と同じ風俗だそうであります。かやうに片手に種子の籠を抱へ、片手を廣く振り動かして撒き散らしますから、種子は或は道の傍に、或は蕀の中に、或は磽地に落つる事があるので、かの比喩が一層面白く味へて參りませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現今の日本婦人

エー、シー、マクドナルド

記者云ふこの一篇はマクドナルド女史日本語を以て草稿を作られ某婦人會の席上にて講話せられたるもの但し草稿はローマ字を以て記されたり。

▲婦人の活動範圍の擴張

歴史によつて昔の時代と今の時代とを比らべて考へて見ますと、或人が云つた樣にどこの國でも婦人の思想が進歩しさへすれば、國民は進むのであると云ふ事は確であると思ひます。それが間違ひない事で御座いますならば、今の人々が婦人の思想の有樣即ち婦人の問題に興味を持つてゐて、そしてその婦人の思想の有樣はどういふ風にすれば進歩する事が出來るかといふ事に就て、いろ〳〵議論して居るのでありますから、今の時代は婦人問題に就て一番大切な時代であると思ふので御座います。そして今の婦人の思想の有樣には、不充分な處があるといふ事は誰れでも認めて居る一つの問題であります。然し乍らその事を改める事は、どうすればいゝてせうかといふ事は、別の問題であると思ひますが、何しろ今の婦人社會にはそんな不充分な事があるに違ひないのであると思ひます。昔は婦人は家庭の事丈けの責任をよく負ひまして、外の働らきは範圍の外であると考へたのでありますが、今の時代は婦人の働らきの範圍が本統に廣くなりましたので、婦人の問題も從つて廣くてむづかしくなりましたのであります。

▲東京にある女學生

昔は婦人がその家庭の內にいろ〳〵の義務、即ち家庭の世話をしたり、子供を育てたり、いろ〳〵の大切な事をしたりしましたけれども、格別に名高い婦人を除いては國民と世界の事に興味を持つて居るものは、誠に少なかつたのであります。けれどもその時代には婦人は出來る丈けの力を盡して、自分の働らき即ち家庭丈けの働らきはよく出來たのであるに違ひないのであると思ひます。然し今の時代は社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の有樣がよほど變りまして、婦人が教育をしたり世渡りをしたりする爲めに、仕方なしにこの世の中の有樣を經驗しないでも、家を離れて、そしていろ〳〵の苦しい事を嘗めなければならない樣になつたのであります。この事はいろ〳〵の列によつて現はれて居りますが、例へば日本の女學生は東京斗りでも七十の女學校へ通つて居る女學生は一萬五千人位もありますが、その女學校から受けた統計によつて調らべて見ると、その内の三千人の女學生は家を離れて、親類の家も離れて、友達の家も離れて、學校の寄宿舍も、女子青年會の寄宿舍をも離れて、東京の下宿屋に住んで居るといふのであります。(明治四十三年の調査)又東京の女學校の中にはいろ〳〵の立派な女學校もありますけれども、やはり大變に下等の女學校もあるのでありますから、そんな下等な女學校へ通學して居る女學生も澤山あるので御座います。さうて御座いますからこの樣な女學生が家て習つた主義を次第に忘れて終ふ樣になるといふ事は、どうしても仕方のない事であると思ふので御座います。一體そんな女學生は罪のないもので、始めて家を離れて東京等へ出て參りましても、外の社會を知りませんから、品性が餘程高いものでなければ誘惑に遇ふのは當前の事で、私は今更ら吃驚りする事はないのであると思ふのであります。

▲進むは難しされど退くも亦苦し

私共はこの悲しむべき事を始めて考へて見て、この有樣ては今の時代は昔よりも危い時代であらうと思つて、婦人の教育の有樣と働らきの範圍を昔の樣に狹くして置く方がよろしいと考へますならば、私共は到底それ程の深い大なる問題を解決する事は少しも出來ないであらうと思ひます。そして私の考へてはそれを解決する事は、今日の實際よりも婦人の教育を少くするとか、又はその程度を低くするとかいふ事ではなく、却つてもつと高く、もつと深く、もつと精神的の教育が必ず大切な事であると思ふのであります。然し乍らこの過渡の時代は女子の爲めに本統にむづかしい時代であるに違いないのであると思ひます。現今日本の女子教育家として有名な津田梅子女史が嘗て申さるゝには「明治の初めから次第に女子教育は盛んになつたに違ひないので御座いますが、これまで進んて來た婦人は、それが爲めに血の川を半ば迄徒歩で渡りかけて居るやうなもので

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ありまして、その川を向ふ迄渡るにはまた苦しい事が勿論起るであらうと思つて、そこから引返へしてもやはり苦しい事が起りますから、婦人社會の進步の爲めに、苦しくても血の川を向ふ迄どうしても渡らなければならないのであると思ひます。即ちこの問題を解決する事は、女子の品性を進むる爲めて、もつと高く、もつと深く、もつと精神的の敎育を向ふ迄施なさければならない」といふ事をお仰いましたので御座います。換言すればどんな大切なる目的にも、犧牲なしに、又苦しまないで之れを達する事が出來ないといふ意味で御座いますが、今の時代の女子がそんな高い目的に達する爲めには、どんなに苦しんでも遂にはそれが爲めにもつと本統の精神的敎育を受けさせる事が出來るであらうと思ふのであります。

▲婦人の備へ度き品性

然し乍ら今の處では私共の凡ての責任は後の爲斗りではなく、誘惑に遇つて苦しんで居る今の婦人をどういふ風に助ける事が出來るかといふ事が一番大切な實際の問題であると思ひます、然し確かにこの樣な實際の問題があるといふ事を認めるといふ事丈けては、それはまた充分といふ事が出來ません。又今の婦人問題を解決するのは容易な事でないとしても、只この苦しい事は後の時代を助ける爲めになるであらうと考へる位であるならば、それはやはりその問題を解決する爲めには不充分であると思ひますさうですから私は空論を避けて、實際にそれを解決する方法を見出す爲めに、いろ〳〵の大切なる實際問題に直接力を盡さなければならないのであると思ひます。それで私の考へては第一に經驗のない若い婦人は自分の身を重んずる事や、廣い社會の有樣を研究して考へる事や、人と交るには直しく異の事をする筈であるといふ事等を敎はる筈であると思ひます。さうて御座いますからその事を一口で云へば若い婦人が、しつかりした人でなくてはならないと思ひますが、然し、しつかりとして居るといふ丈けては女の品性は高いといふ事は出來ないと思ひます、即ち婦人はしつかりした人である計りでなく、しかも若い婦人が我儘を押へて、常に同情を以て、外の人の爲めに仕へる精神を養ふ事は、實に大切な事であると思ひます。

▲家を離れんとする女子への警告

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二はもし若い婦人がその家を離れて、學校へ通ふ爲めに東京等へ出かけるといふ人を御存じであるならば、いろ〳〵の危い事を戒めたい、又無事に止まる事が出來る家か寄宿舍を選んだり、又は其の土地に居るしつかりした人にその女學生を紹介したり又は萬事を賴む事が出來るならば、その經驗のない婦人を助ける上に於て非常なる助けをする事が出來るであらうと思ひます。たとへば東京にはいろ〳〵のキリスト敎主義の寄宿舍がありますから、東京に上らうといふ若い婦人が、そんな寄宿舍に入るのは幸の事で御座います。されどももしその東京の社會の有樣を知らない若い婦人が一人で何にも解らない家や、下宿屋に入るならば、それ程危い事はないのであると思ひます。

▲神の愛を知らしむること

第三はこの危い時代に若い婦人が經驗のない社會の有樣に對して高い理想を守るといふ事は、どういふ風にすれば出來るかといふ事を自覺して、いろいろの誘惑に勝つて、强く淸き品性を保つて、犧牲的に世の人と國家と世界の爲めに仕へて、どんなむづかしい事でもよくこれを爲す事が出來るかといへばその婦人は是非神樣は私共の愛する父であるといふ事を知らなければならないのであると思ひます。さうですから婦人の爲めに一番大切な敎育は、この神樣を敎へる精神的の敎育であると思ひます。

▲イエスの新らしき戒め

今申し上げました三つの事は、凡て今の時代の若い婦人に對して直接の實際問題でありまして、私はどうしても今お話を申しました樣にしなければ解決する事は出來ないと堅く信ずるのであります。エスは「わが新らしき戒めを汝等に與ふ、卽ち汝等相愛すべしと之れなり。わが汝等を愛する如く、汝等も相愛すべし、汝等も相愛せば、これによりて人々汝等のわが弟子なる事を知るべし」とお仰いましたがこれは本統に私共に適切な敎訓でありまして、この日本の若い婦人が謙遜なる心を以てこのキリストのお仰つた事に從ひますならば、必ず立派な品性を備へた婦人となつて、神の國を建てる爲めに働らくものとなることが出來るのであると思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

傳記

ファンネ、クロスビイ嬢

小此木まつ子

　或方の紹介で近頃珍らしい人の傳を讀みました。驚かれる節々、感ず可き數が多かつたのですが、その本といふのは、八十餘年を盲目で讃美歌の作者として送つたファンネー、クロスビーと呼ぶ、米國婦人の自傳です。八十八歳の祝をすました後、思ひ出多い信仰の一生を追想して、綴られたもの概略は次の樣です。

▲幼時

生れは紐育州の片田舍、名も知られぬ樣な一小村です。其生れ故郷の記憶といふのも、皆、盲目の鋭い想像力から産みだしたもので、其平和な森や牧場の色も決して、肉眼で見られたのではありませぬ。生後六週間、目を病ひ、村醫の手當の間違から、遂に全く明を失つて終つた此人の幼時は、多くは、母一人の淋しい家庭に過された樣です。唯、家の後ろを流れた小川に近寄つては、岩の上に匍ひ上つて、水の響きを無上の音樂と聞いたといふ樣な記事もあります。玩具にも飽き、じれて〳〵困り拔いた此兒を慰める爲に、母親は最後の手段として小羊を抱かせましたらば、珍らしさと可愛さに寸時も離さず遊び狂ひましたけれど、小羊だとて、ずん〳〵大きくなるものですから、何時〳〵までも、盲目の子の相手にはなりませむ。直に庭先などでも、飛びついて倒したり、泣かせたりする樣になりました。其中に或日の事、呼むでも〳〵小羊の足音も聞えず、近處の牧場にさへ居る樣子も無いので、案じ疲れて暮した夕方晩餐の食卓に上つたのが羊肉であつたので、堪へ切れず悲しくなり、其後は決して獸など飼ふまいと子供心に決心したなどいふ事が、昨日起つた事かの樣に、若々しい筆の運びで語つてあります。

　隨分と元氣な子で、村の兒等に負けず劣らず、惡戯もしましたけれど、注意深い母親とお祖母さんとは、常の場合ならば、決して小言をいふ事は無く、後で、自ら反省する樣にといふ方針を取つて居たので、時に烈しく咭責せられた事を、子供心にも餘程悲しく殘念に感じたのでした。殊に、信仰深い家内

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の習慣から、早く、思ひの儘を祈りに表はす事を覺えて、夜毎に、祖母の膝によつては、幼い思ひを禱りました。そして、盲目であるといふ事に對しては唯の一度も不足を感じた事もなく、自分を失明の人たらしめた醫者に對してさへ唯の一度も恨みを抱いた覺えが無いといふ事です。つまり此人が物心つく頃から一生を通して變らなかつた所信といふのは、「盲人必ずしも普通人に劣らず」といふ事で、非常な信念と希望と能力とて以て美事、此所信を貫かれたのでした。

此時分といへば彼れ此れ九十年近い昔ですから、盲人敎育といふ樣な事も極々新らしい事であつたのです、片田舍などでは、到底、何の特別敎授を受ける事も出來ず、孃が此頃の敎育といへば、唯聖句又は美くしい詩を讀み聞されて、樂しんで其等を誦んじ、子供仲間などでも、歌の眞似事など作り合つて悦むだ位のものでした。十歲頃からは、如何にかして、完全な敎育を受けたく、折にふれては母親に願つて熱心に望むで居りましたが數年を經て愈々、紐育の市に其頃出來た盲人學校のある事を聞き、母も子も非常な奮發決斷の結果、愈々、此盲目の兒は唯一人、其學校へと行く事になりました、傳の一節に次の樣な事があります。

「私も時々は近處の兒達に跟いて學校へ行つて見ました。或午後、學校を出ると、門のところ迄、母が迎ひに來て居ました。手には何かの紙を持つて居る樣な音です。多分、誰れかの病氣が、死むだ報知でも持つて來たかと思ひましたら、さうでは無く、其紙といふのが、紐育の或人から送つて來た盲學校の規則書であつたのです。母が讀むのを聞いて居た私は嬉しくて堪らず、手を打つて「やつぱり神樣が私の願ひを聞いて下さつた。切度左樣だらうと思つて居た」と申しました。此れは私の一生の中で一番に嬉しい日であつたのです、今迄、暗に閉ぢられて居た頭に俄に智識の光と希望の色とが爛いて來たのですから、見たい〳〵と望むだのは、肉眼でと思つたのではありませむ。それで今度といふ今度こそは、私の心願は屆いたのです。紐育盲學校といふ名は全く耳新らしかつたのですけれども自分に敎育を授けて吳れる場處があつたといふ事だけて、もう充分滿足てした。此時にはや私の希望の光は大きな火の玉などの樣に輝いて居つたのです。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲學校生活

此樣にして十五の春三月、平和に充ちた故郷を後に、物騷がしい都に上り、知らぬ他人に交つて寄宿に入る身となりましたが、人聲も變り、手觸りも違ふ新らしい場處に住み馴れるのも早いもので、深切な教師生徒の中で、孃は著しい進歩を示して來ました、丁度此頃凸板が發明使用されて居つた時であつたのみならず、少さい時から一流の詩をば盛んに讀み聞かされたが爲に生來好きな作詩に益々興を覺え教師に祕しては、內々種々の詩形などを試みたものでした、それに隨分と負けぬ氣の、元氣も盛んな子でしたから、いろ〳〵と罪の無い笑談、さては教師の揚げ足などを盛んに取つては歌の形に作つたりしました、此方面での大得意とは反對に、算術は大の敵で、遂には學校の許しを乞ふて全く廢して終ふた程でした。

此頃の盲學校は米國に於ても非常に珍らしいものであつたが爲に、學者、政治家、將軍と、諸方面の名士の訪問が絕えませむでした。其折每に、孃は何時も、客人の前に立つて臆せず暗誦などをしましたが、大體は自作の詩ばかりでした或時にはあまり慢心に走る事を恐れて校長から固く作歌を禁ぜられた結果、非常に心が欝して、學課の方もずん〳〵落ちて行く、夫れては却つて爲にならぬといふので、又許される事になり、何といふ定見も無いながら唯、歌詩を作つては樂しむ樣になりました。勿論少女の書くもの不完全ではありながらも、其即吟の達者なのには教師も唯々舌を卷く程でした。

夏の休には每年、教師に引率せられた生徒の一團が、當時困難であつた旅行を續けて、各地方へと出掛けました。これは廣告の爲の旅行で、どの樣な學校があつて、盲人にどの樣な教育を授けて居るかを世人に示すが目的であつたのです。行く先々の會堂などに人を寄せては、凸字の讀み方、歷史地理の暗誦などを聞かせ、最後に來るのは、何時でも、クロスビー孃の詩吟でした、中には、孃の能力、仕込みを疑つて、即題の詩を所望したり、又は難解の語句を解釋せよと注文したりする人達もありましたけれども、非常に銳利で、又度胸の据つて居た孃は、何時もながら、見物を驚かせる樣な美事な出來榮えを示すのでした。

又或年には盲人教育に政府の注意を喚起する目的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、矢張り教師に引連れられて華盛頓府へと行きましたが、丁度開會中の下院に出て、滿場の議員の前に一場の演説を試みたのも孃でした。其當時或は其後にも、國會に所存を吐いた婦人は孃唯一人と言はれて居ます。

此の樣にして八年を過した孃は引續き同校教師として教鞭をとる事になり、爾後十五年の永い間音樂に文學に、後進の子女を教養するにつとめられましたが、千八百五十八年に、同じ盲人のヴァンアルスタイン氏に嫁せられ、遂に教職をも退かれる事になりました。

▲讃歌作者としての孃

婚嫁後も尙、其良人の懇望に依り、作歌者としては、已に世に知られた舊來の名を用ゐて、年々無數の歌詞をよみ出されたのですが、其作歌の工合が如何にも奇拔で、己れの中に燃え、溢れて居る信念は、案ずる事なく、苦しむ事なくて直に歌詞となつて現はれて來るのです事件に當つて作られたるもの主題を與へられて作つたもの、自づと心情の漲ぎつて詞となつたものなど、總數に於て八千を越えたといふのでも其如何に盛んなるものであつたかが、分りませう。讃美歌の如く、曲に合せて歌ふものとなれば、音樂との關係も亦密接になりますから、普通の人ならば、中々一時半時に綴り得るものではありませむのに、耳の鋭い孃には此點に就て、何の困難も無かつたらしいのです。例へば、同じ音樂に堪能なる其良人の奏でらるゝ新曲を耳にした夫人は、忽ちにして歌詞を作つて此に合せられた事も屢々で、多くも二回繰り返して其曲を聞けば容易に詞もつけられたといふ事です、又或時の如きは遠國の出版者から四十題を送られ、其等の題に相應する歌をと賴まれました。四十の歌は苦も無く出來ましたが、其間一つとして、それを書き記して置いたものは無く第四十番目の出來上つた時に始めて人をして書かしめたといふ樣な話も少くありませむ。此記臆力に就ては婦人の言葉は次の樣です。

「心は大きな安全庫の樣なものです。毎日〳〵種々な品物を仕舞ひ込むで置きますと、そんな物のある事さへ忘れては居りますけれども、必要に應じては出て來るものです。私の頭の蓄へも此樣な工合です平日は全く忘れて居つても、一度入れたものはいつかは出て來て役に立たせる事が出來ます。」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此等の歌詞は、ファンネー、クロスビーの名で出たものは少く、種々な異名で出て居ります爲に、それとも知らぬ人の口から、自分の歌の功力か長々と聞かされた事も多く、又甚しい時には、作者自ら、自作てある事を忘れて非常な讃辭を呈したといふ樣な滑稽もありました。兎に角に、此一萬に近い讃美が米國ならず、英國に或は殖民地にまで歌はれて、人の心情に及ぼした影響は實に非常なものに違ひありませむ。自傳の中にも歌の力で、正道に還つた人々の話など老年の思ひ出おほく書いてありますけれ共今茲に載せる餘祐もありませむ。

▲その晩年

晩年には、紐育市内或は他地方の傳道館青年會等に多く出入して專ら青年男女の誘導に盡し盛夏極寒にも老軀をいとはず大に外に力むると同時に、内其思ひを讃歌に表はして、サンキー、ムーデー諸氏等と共に專ら基督の愛の宣傳に力を致されました。

斯くの如くにして、生れて日光の美はしさを仰いだ事も無く、山の綠も、水の青さも見るを得なかつた、此終生の盲人が何一つとして不安も無く驚く可き元氣と興味とを以て萬事に當り、幾百の盲人を鼓舞し、幾萬の眼明きを向上せしめた、所以を考へて見ますと、其命の泉、其活動の原力は實に神に存して、居つたのです、神に生きたればこそ、此勇者の一生をも送る事が出來たのでせう。肉眼の明を失つたのは即ち、心眼に依て、神をより能く見せしめむが爲の神意を悟つた其信念は、生涯變る事がありませむでした。そうして人を羨まず、世を羨まず、晴れたる心に其才能を發揮して、盲人の身に東奔西走全力を神の讃美と宣傳とに注いだ此人の如きは、まことに得難い貴いものと思はれました

聖書研究

耶蘇の說きし敎（二）

柏井生

（四）信仰

信仰によりて救はるゝと云ふことは新約聖書に一貫せる本義である。それ故我等は信仰と云ふことを考へなければならぬ。しかし神學の書物を讀むやうな抽象的概括的の說明では適當でなからうと思ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

故、むしろ耶蘇が信仰と云ふ事につきて語りたまふた重なる言につきて學びたいと思ふ。

耶蘇は信仰の少い事を叱られた場合がいくつかある。馬太六〇三十には、『神は今日野に在て明日爐に投げ入れらるゝ草をも斯く裝せたまへばまして汝等をや嗚呼信仰薄き者よ』と云ふ語がある。この處て信仰と云ふのは、神の保護攝理を信ずる信仰である。この世界は盲目なる無心なる運命に支配せられて居るのでなく慈愛に富み且義しい天父の支配する世界である。それ故苟も正しい生活を營み、神に仕へ人を愛して世を渡るならば、神は必ず汝等に必要なる物を供へたまふと云ふ、これは大なる信仰であつて人々を種々必要ならざる思ひ煩ひから救ふ信仰である。救と云ふのは夫等の靈魂が罪から救はれ死から救はるゝが主要な意味であるが、積極的に云ふと神の子となり子たる意識をもつのがこれ即ち救の本旨である。既に子たる心を以てこの世に處するならば、此處に耶蘇の敎へたまふたやうに、あまり思ひ煩はず神に信賴し直しき事を行ふて怖れぬと云ふ信仰があるべきはずであると思ふ。馬太傳八〇二十六に弟子がガリラヤ湖上て暴風に逢ひ懼れ騷いて『主よ救ひたまへ我等亡んとす』と云ふたとき、耶蘇は『信仰薄き者よ何ぞ懼るゝや』と云はれた。これも同じ種類の信仰である。眞に信仰のある人は懼れると云ふことはない、神を畏れ謹むと云ふことはあるけれどもたま〳〵世間の事に懼れ狼狽すると云ふことはなくなり得らるゝのである。馬太十四〇三十一に『信仰うすき者よ何ぞ疑ふや』と云ふことがある。

それから又耶蘇が或る事を爲し得ると云ふことを信ずる信仰もある、つまり耶蘇の力を信ずるのてある。馬太九〇二十八に『イエス家に入りしに瞽者來りければ彼等に曰ひたまひけるは我が此の事を爲し得ると信ずるや。答へけるは主よ然り。イエス彼等の目に手を按いて汝等の信ずる如く汝等に成るべしと曰ひければ其の目開けたり』とある。ナザレに歸られた時の事を記して、『彼等が信ずることなきに由りて多くの異なる能をこゝに行し給はざりき』(太十三〇五十八)と書いてある。耶蘇の力は心靈的道德的の力であるから、之に感應する信念がない處には働くことが出來ない。インゲの云つた如く、信仰は人の靈が神の眞と善に接觸した時に起る本源的の運

動てある。』

次に啻耶蘇が病を癒すことが出來ると信ずるばかりでなく、其の中に自から今一層深い全體的の信賴のこもつて居る場合もある。例へば馬太九〇一―八にある癱瘋を病んで居つた者に『子よ心安かれ汝の罪赦されたり』と云はれたのを見るに、精神上にも不安を感じて耶蘇に求むる心、彼に信賴する心があつたと思はるゝ。

それ故耶蘇の力を信ずる彼の爲された事を信ずる信仰は更に進んで耶蘇自身を信ずる信仰とならねばならぬ。ヨハネ傳の方には耶蘇自身を信ずる信仰が多く說かれて居る。『神を信じ又我を信ずべし』(十四〇一)と云ふが如き其の一つである。サマリヤの婦に向ひて『婦よ我を信ぜよ』と云はれ(四〇二十一)又『我を信ずる者は恒に渴くことなし』(六〇三十五)と云はれた。しかし共觀福音書の方では如何であらうか。馬太十八〇六に『我を信ずる此の小子』とある外には『我を信ずる』とか『我を信ぜよ』とか云ふ言は外に見當らぬ。それ故或る學者が論じて云ふには、共觀福音書の信仰は神を信ずる信仰であつて耶蘇を對象としたものではないと。成るほど耶蘇を信ずるにしても矢張それは耶蘇に現れた神を信ずる譯であつて、神に係らない信仰と云ふことはないことは明かである。信仰の終極の對象は無論神であるけれども、神から遣されたものとして耶蘇を信じ之に任せる信仰は彼の要求した所のものである。故に彼は『我を受くるものは我を遣しゝ者を受くるなり』(太十〇四十)と云ひ『凡て疲れたる者又重きを負へる者は我に來れ』(太一一〇二十八)と云ひ『我よりも父母を愛しむ者は我に協さる者なり』(太十〇三十七)と云はれた。それ等の言を綜合して考へて見るに、耶蘇は彼自身に對する信賴崇敬を要求せられたことは明白である。

耶蘇は時々信仰の大なる事を稱贊せられた。カペナウンの百夫の長の信仰を賞めて『イスラエルの中にだに未だ斯る篤信に遇はざるなり』(太八〇十)と云ひ、又フキンシヤの地に行きし時或るカナンの婦をほめて『婦よ汝の信仰は大なり願の如く汝に成るべし』(太十五〇二十八)と云はれた。此の二人の信仰の性質を考へて見るに何處が篤い處であるか又何處が大い處であるか、つまり信仰が誠である。自然である、活潑である所に存するやうである。然して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此の二人に共通して居る事は彼等の境遇が信仰に便利な境遇でないことである。一人は羅馬兵の士官である。一人はフヰンシヤの婦である、いづれも猶太人でない、眞の神の敎に育てられたものでない。然るにこの二人にイスラエル人の間にさへ得易らぬやうな立派な信仰を見出した。實に一種の掘り出し物である。思ひかけのない處で貴い寶を見出した悦が耶蘇の言に現れて居る。このやうな自發的な信仰こそ大なる信仰である。信仰は量でない質に存する弟子が『我等に信を益させよ』と願つたとき『汝等もし芥種一粒ほどの信あらば此の桑樹に拔けて海に植はれといふとも汝等に從ふべし』（路加十七〇六）と答へられた。芥種一粒でもよい生命のある信仰なれば必ず生長する發展する、大なる力となるのである

又信仰は精神である心の微妙な働きである故、打ち遣つて置いて可いものでない、荒れすさまぬやう氣をつけて之を大切にしなければならぬ。耶蘇はペテロに向つて『シモンよシモンよサタン汝等を索めて麥の如く簸はんとす然れども汝の信仰絶えざるやう汝の爲に祈れり』（路二十二〇三十一、三十二）とあるを見てもわかる。信仰は得難く失ひ易い。信仰の破船者は少くない。路加傳十八〇八に『神は速に彼等を救はん然れど人の子來んとき信を世に見んや』と云ふ耶蘇の言がある。それは少し分りにくい言であるが、大體の精神は、堅き信仰を以て待つと云ふ人が實に得難い事を嘆ぜられた聲である。

是の如くいろ〳〵信仰に關する耶蘇の敎を調べたけれどもまだなか〳〵眞髓に徹せぬ心地がする。兎に角信仰と云ふ事が耶蘇によりて絶大の價値を附せられた事は次の一事を考へてもわかる。舊約聖書は無論大なる信仰の歷史であるが。しかし信仰と云ふ言葉は數へるだけしかない。名詞で用ひてある所は申命記三十二〇二十とハバコク書二〇四の二個處である。ハバコク書の方は『義しき者はその信仰によりて活くべし』とあつて新約にも引いてあるが申命記の方は、信仰と云ふ意味とは少し違ふ故に日本譯には『眞實』と譯してあるほどである。かく舊約には信仰と云ふ文字が乏しいに反して新約聖書には如何に屢々出て居るか、信仰と云ふ基石を取り外すならばパウロの思想は崩れてしまふのである。かく信仰と云ふものゝ、價値を高めたものは何であるか。耶蘇基督あるのみである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文苑

聖盃

風江

三

或る日神殿の年老いた門番の武士が、いつものやうに谷に沿ふた小さな湖の方を眺めて居た。ふと見ると湖の上で心安すげに飛んで居た鵠が、俄かに暴々しく羽ばたきして水の上に落ちた、よく見ると矢で射られて居る。誰の所爲であらうと其の方に走つて見に往つた。此の邊てはすべて活きものを傷めることが禁められて居るのてある。

彼が岸邊まて行くと、鵠は其の足下まて來て斃れて了つた。同時に一人の青年が獲物を捕へやうと走つて來た。青年は斑色の獸の皮を着て、如何にも強さうて、全體がよく引き締つて居る。其の眼は何物をも恐るゝところなく、極めて無邪氣て快活てある。『鵠を射殺すなんて、甚だ善くない』と老人は儼しくいふ。

『何故？。人が鳥や獸を獲ることは當然ではないの僕があんなに高く飛んで居た鳥を射止めたのは見事だと思ふよ』。青年は平氣て答へる。

『否、お前さんは今何んな活きものでも、殺すことの禁じてある神聖な土地に來て居るのだ。あんな無用な殺生をするなんて、飛んでもないことぢや。此の立派な鳥が雲のうちに飛んで居るところはもう二度と見られねえ。之には雌もあつたらう、子供らも持つて居たらうに。可哀相にもう逢ふことも出來なくなつた。

青年は老人の言を聞き、頭を垂れて心配さうな顔をして居たが、『僕其んなに惡いことた思はなかつたんだよ』と云ひ、いきなり手に持つて居た弓を膝に當てゝ壓し折り、矢を皆んな棄てゝ了つた。

『お前の名は何んと云ふ』。老武士は問ふた。

『パルシファルと云ふの』。質撲に答へた。

『何時から來たかね』

『僕知らない。』

『何所に行く積りかね。』

『僕武士になる積り。何時も然う思つて居る。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「然し武士になるには色々大切な仕事があるが、知つて居るかね。罪もない鵠などを射つてぶら〳〵遊んて居ては仕樣がない。」

少年は赤面して、じつと儼格な老人を見つめた。

「人てものは勇氣があつて、正直て、そして其の心を清くして居なくちやならないといふこと僕知つてるよ。僕のお父さんは久しい前に死なつたのだが、立派な武士てあつたつて、お母さんがいつも僕にお父さんのやうになれつて云つて居ましたよ。

「然うかい。然かし武士になる前に色んな辛い目に逢ふだらう。世界を巡歴して云ふに云はれぬ艱難を甞めなきやなるまい。」

「其の積りよ。」確ぱり答へる。

「お前は本當に僞りのない子だ。其の精神が氣に入つた。神殿の禮拜に出て歌ても聞かないか。ひよつとしたらお前も唱歌隊に加はりたくなるかも知れないよ。

「いゝえ、僕は武士になりたいのてす。けれど歌を聞きに往きませう。」

二人は鵠を湖に放げ込んで、丘の方へ登つて往つた。神殿の門に着くと、丁度聖餐式が始まるところてあつた。少年の唱歌隊は美しい聲てアムフォルタスの作曲した讃美歌を歌ひ出した。

「憐みによりて與へられん、
吾が誠實なるものを。……
汝、彼の來るを待つべし、
我が意志の行はるゝまて。」

前の少年は老武士の袖を引いて其の意味を問ふた。

「靜かに、我には解らない」と老人は答へた。

少年は意味の解らぬ歌を歌つて居るのを不思議に思ひながら、默つて大きな目を見開いた儼拜な禮拜の光景を見て居る。

老體のチチュレルが丁度禮拜に列つて居た。殘りの生涯はもう幾何もないので、氣分の良い時は、常に慕つて居る聖盃の前に臥床を運ばせて居た。そして今日も他の武士と共にアムフォルタスに聖盃の蔽ひを取つて聖餐を守ることを勸めた。

アムフォルタスは首を揮つて聲高く嘆息した。

「父上、まだ何うしても、私には此の聖盃を取り出す價値がありません。」

然し餘り皆んな勸めるので、到頭前に進んで聖盃を取り出し、葡萄酒を注いて、之を皆んなに分つた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

之と同時に彼は苦痛に堪へ切れなくて床の上に倒れた。古い瓶口は再び新しく破れた。然しチチュレルと外の武士は樂しく聖餐を守つた、唱歌隊の聲は樂の音と共に人の心の奧に徹するやうに響いた。

パルシファルと呼ばれた少年は柱の陰で此の光景を見て居たが、其の事情が少しも解らぬ。其のうちに門番の武士も聖餐に陪して遣つて來て、少年を堂外に伴れて往つた。

『叔父さん何うしたのよ王樣がなんだか大變苦んで床の上に倒れたのは。其の理由を話して下さいな。』

『あの方の脇腹の傷が痛み出したのだ。』

『何故癒らないの。』

『其れは長い話さ。其の傷は神聖な槍で突れたのだ。何んでも其の槍にも一度觸つたら、すつかり癒えると云ふことだが、其の外には何うすることも出來ない。』

『そんなら何故其の槍を取つて來ないの。』

『其れがさ、今は力ある魔術者の手に入つて居る。』

『誰も取り戻すことが出來ないの。』

『色々探すけれど、まだ見つけたものがない。然しまあお前はあの禮拜が氣に入つたかい。』

『僕何んにも感服しない。』少年は云つて去りかける

『本當にお前は唱歌隊に加はる氣はないだらう。然しお前は是から何處に行く氣だい。』

『僕今から王樣の傷の癒る樣に槍を探しに行くよ。』

老武士は此の上何んにも云はず、其の爲すにまかせた。然し堪へ切れないやうに獨言を云つた。

『本當に氣持の好い、僞りのない少年だ、誰も害ふものはなからう。然し此所に留らないのは馬鹿だ。今に立派な武士になるだらう。』

恰かも禮拜の終りの讚美歌が聞える。神秘な歌が特に耳に響く。

四

魔術者クリングゾルは一人の卑しい婦に呪文を唱へて何んなことでも己が意のまゝになるやうにした。其れは年老つた皺だらけの婆で、是れまで巫女をして田舍を廻つて居たものである。然るに魔術者が魔杖を動かすと、忽ちにして未だ見たこともないやうな美人に變る。其の名をカンドライと云つて聖盃を尋ねて來た武士は是れまで此の妖女の爲めに幾人迷はされたか知れない。アムフォルタスが過つたのも此の手に乘せられたのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然し呪文が除かれると、此の婆は己れの爲て居ることの善くないことを痛切に悔み嘆くのが常であつた。さてクリングゾルは誰れも己れに敵するものはなからうと油斷をして居るうちに、パルシファルは神聖な槍を探しに出かけた。そこで魔術者またカンドライを喚び返して、從前のやうな惡手段でパルシファルを陷れやうとした。然しカンドライは此の無邪氣な暢びりした青年を見て、魔術者の命令に聞くことを好まなかつた。

「まだあんな小僧子ではありませんか。心配するにや當りませんや、幾ら何んだつてまさか貴下の手から槍を取り返すなんてことを遣る氣づかひはありませんよ。」

然し魔術者は怒を含んでいふ。「俺の云ふ通りにすれば好い。彼奴があんまり潔くて無邪氣だから、俺は一層恐れるのだ。あんな奴が來るといふことは久しい前から聞いて居た。」

斯う言はれて見るとカンドライは命令に從はぬ譯に往かぬ。パルシファルがクリグゾルの王宮に近づくと、王宮は遽かに地中に埋つて、其の代りに美しい花園が現はれた。青年は其の妙なる音樂に耳を傾けつゝ、

「何んといふ美しい調であらう。が何うも重くろしい、不愉快な心持がする。一體何處から其んな音樂が聞えるのだらう。」

花園の入口では薔薇や、百合や、三色菫や、石竹や、樣々の美しい花が色を競ひ、其の花の中央には人の心を惑はす少女の星のやうな眼や、笑こぼるゝ顔などが現はれる。

「來らつしやいな。泉の傍でお憩みなさいよ。そして甘美い神酒を飲し上がれな。貴方が木蔭で憩んで居らつしやるあいだ、私たちに歌はせて下さいな。」

「否、僕皆さんが好きだし、歌を聞きたいんだけれど、急ぎの用があつて此所に留つては居られないさ」とパルシファルは卒直に答へた。

「だつて少しは好いてせう、來らつしやいな。」

花は嘆願するやうに、怨むやうに云ふ。

「僕は何うしても這入ることが出來ない」首を揮つて云ひ、踵を廻らして出かけた。すると他のより一層優しい聲が彼の名を呼んだ。

「僕を呼んだものは誰？」ふり返つて尋ねた。

「私が呼んだの。」優しい好い聲で云ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

扉を廣く開いた亭があつて、其の中に夢にも見たことのないやうな美しい少女が座つて居た。其れは老婆カンドラが姿を變へたのであつた。

『何うして僕の名を知つて居るの。』

『私はね貴郞のお母さんを知つて居ますよ。そしてお父さんも。此の方々のことを聞きたくはなくて?。』

『え丶聞きたいです。何うぞ話して下さい。』

『それぢや此の亭のうちに來てね、少しお憇みなさい。音樂も聞かれますよ。そしてお酒でも飲し上れな。愛しい花と舞踏つて御覽なさい。』

『否、今直ぐ話して下さい。僕は弱つて了うまで憇まないのです。途草を食つて居て善いことは出來ないんだもの。』

『まあ何んて野暮な方だらう。何故其んなにお急きなさるの。』

『僕は魔術者を尋ねて居るのです。貴い槍を盜んだ魔術者を』青年は包まず云つた。

『然うなの、それぢや私敎へて上げるわ。』女は怪しい光を眼のうちに隱して叫ぶ。『來らつしやいな。私の側にお座りなさいな。私は其の人のことも、それから貴方の御兩親のことも話して上げませう。』

パルシファルは之を聞いて振り返つて花園のうちに徐々這入る。

『最初にお母さんのことから聞きたい。』女の傍に座つて云ふ。『お母さんは達者でせうか。』

『エヽお達者です。げれどもね貴方がお出ましになつてから、大層お嘆きなさつて居らつしやいます。私數日前にお目にかゝりましたの貴方のことを本當に思つて居らつしいやました。

いきなり女が前にかゝんだと思ふと、パルシファルの唇に接吻した。是れは彼を惑はす詭計であるけれど、更に其の甲斐がない。パルシファルは先から毒蛇に嚙まれたやうに跳り上つた。

『アムフオルタスさん。アムフオルタスさん。僕は今知りました。貴方の脇腹の傷を。其の痛みはまた僕にも來ました。』と叫んだ。

『何を仰しやるの。私何も貴方を痛めはしませんわまあお留りなさいよ。』女は優しく云ふ。

『否、此處は惡い所です。人の心を殺す所です。』青年は此處を立ち去らうとする。女はとても自分の力では引き留められないと思つて、魔術者を呼んだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やがて青年の前に黒い恐ろしい姿が現はれる。

「留まれ。」クリングゾルは手に貴き槍を提げて命ずるやうに云ふ。「俺の花園に這入る奴は容易に出ることは出來んぞ。」

「其所退いた、僕は何んにも惡いことをした覺えはない。其れだから何んにも恐いものはない。」

「此の槍の痕が付いたら恐くなるわ。アムフォルタスの二の舞か。」

「ハヽヽ何を云ふんだい。僕はあの方の爲めに其の槍を貰ひに來た。」

「さあ取つて見よ」と魔術者は怒りを含んでほざく恐しい顏をして槍をパルシファルに目がけて投げ付けた。不思議にも其の槍は中途で止まり、青年の頭のあたりに穩かに遣つて來た。彼は其れを恭しく握つて十字を切り、

「此の印によつて滅び失せよ。貴樣の惡い魔術は地の上から無くなつてしまへ」と云つた。

かくて悽い音がして地震が始まる。花園も、花も、音樂も、川の流も、瞬く間に消えて了ひ、パルシファル只だ獨り堅い地盤の上に殘つた(次號にて完結)

會の消息

◎新幹事の來朝

△新幹事ミス、ルース、レーガンは米國コロラド大學の近世語學科に於て、獨、佛、西班牙語を修めたり。本會の發展に伴ひ、事務彌々多端ならんとするに際し、同女史の來朝は會員一同の深く喜ぶ所なり

△特志幹事ミス、ページは米國カリホルニヤ大學に於て史科を修め、昨年は東洋諸國の漫遊を企て、本邦滯在中は當三番町事務所に寄寓せられたる事は其當時既に紙上に揭げたる所なればなほ記憶に新らたなる所なるべし。先に日本に於ける女子青年會設置の擧あるや米國東海岸の有志者を動かして多大の寄附を寄せられたる最初の人にして、以後事ある每に常に同情を寄せられたるが今回は更らに自費を以て本會援助の爲に來朝せられたり。同女史は聖書の研究殊に委しきを以て、本會が特に心を用ふる聖書の組を始め、本會の發展を助くる事は多大なるべきを疑はず。本會一同茲に深く其の好意を謝す。

◎日本基督教女子青年會

二月二十四日午前十時井深花子氏司會の下に、委員例會を三番町なる本部に於て開會。井深花子、津田梅子、三谷民子、ウエスト、フイシャー、エリス、河井道子、二宮貞子、マグドナルド、マシユウ、小

橋三四子諸氏の來會あり。井深夫人の聖書朗讀に次ぎ、河井道子氏の祈禱あり。三谷民子氏前回の記錄を朗讀し、一同之れを認め、直ちに事務協議に移り、左の決議をなす。

一、本會委員として新らたに津田梅子、廣岡淺子、植村季野子、長谷川きた子、二宮貞子、松田道子、神代よし子、渡邊夫人の諸氏を推擧す。(津田梅子、廣岡淺子、二宮貞子の三氏は既に承諾を與へらる)

一、ミス、ルース、レーガンを本會記錄幹事として推擧の事

一、ミス、メリー、ページが東京女子青年會援助の爲め好意を以て態々來朝せられたるにつき、本會は其好意を深謝し、特志幹事に推選の事

一、明治の女子を日本女子英米留學生に寄贈の件

一、本會役員は凡て再選の事

一、河井道子氏より本會の規則中添删すべき個所を指摘せられたるにつき、同氏に訂正を一任すべき事

一、マグドナルド氏は本會の發展を計らんが爲め日本の總幹事一名任用ありたき希望を述べられ、委員一同も亦大にその必要を認め、先づ之れに要する費用を募集せざるべからずとなし、特に其の委員として井深花子、津田梅子、小此木松子、三谷民子、マグドナルドの諸氏を擧ぐ。ミセス、フイシヤーは直ちに金壹百圓也を寄附申込まる。

なほマグドナルド總幹事は會計井上友子氏よりの報告朗讀、及び別項記載の萬國女子青年會への献金を始め、諸種の事務報告あり。小橋三四子氏より支部の報告、明治の女子に就ての報告あり。其の他夏期修養會の事につき種々協議する處あり、午餐を共にして、午後二時散會せり。

△橫濱共立女學校女子青年會にては拾圓也夏期修養會場建築費の中に、青山女學院女子青年會にては金五圓也本部費用の中に寄附せられたり。支部會員諸氏が本部と常に其の興味を共にせらるゝ事は、役員一同のこの上なく力強く思ふ所なり

△明治の女子子發展援助の爲め、前號掲載の各支部の他に仙臺宮城女學校より十部大阪ウヰルミナ女學校より二部申込まる。本會は深く其の好意を謝す。

◎萬國女子青年會への献金

大阪プール女學校	二圓六十八錢也
青山手藝女學校	一圓四十四錢也
橫濱共立女學校	二　圓也
札幌女子青年會	一圓〇四錢也
大阪ウヰルミナ女學校	七圓〇四錢也
女子學院	五十六錢也
橫濱フエリス女學校	九十六錢也
青山女學院	四圓九十錢也
東京女子青年會	四圓九十九錢也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

米子女子青年會　八十五錢也
廣岡淺子同龜子氏より　五　圓也
〆金參拾壹圓四拾六錢也

◎東京基督敎女子青年會

△二月八日委員例會を麻布區本村町のミス、ボウフラワア方に開會。この日同女史の令兄監督シシル、ボウフラワア氏も出席せらる。開會前三十分間特に祈禱し、事務協議に移る。寄宿舍委員長今西糸子氏寄宿舍に關する諸種の報告あり、今回同寄宿舍にては各室に電氣を設置することゝなる。宗敎委員長三谷民子氏より二月二十五日萬國學生祈禱日に付東京の各所に小さき集りを催す事につき、それ〳〵交渉中なりとの事、次に小室みゑ子氏より今年十三名の普通會員と一名の維持會員新らたに加はりし旨の報告あり。次て幹事ミス、マシユウより第三寄宿舍の土地選定につき、種々協議する所ありたり。

△二月二十五日萬國學生祈禱日は既報の如く、三谷民子氏委員長となり、左の個所に於て、會合を開きたり。尙當日の講演者及來會人員を併せて記せば

▽小石川指ヶ谷八十四、ミスバーンハイン方に於て午後三時開會、跡見、第二高女生來會、萬木牧師の演說ありたり。

▽小石川安藤坂青年會寄宿舍に於て午後七時開會、河井道子氏の談話ありたり

▽麻布鳥居坂町八　ミス、アレン方に於て午後一時開會、香蘭、第三高女生凡百五十人來會

▽麹町上二番町女子學院に於て午後三時開會、女子學院、女子英學塾、納戸町寄宿舍生等二百名來會。長尾半平氏の談話ありたり

▽麹町平河町六丁目十六、ミス、ウエストン方に於て午後二時半開會來會者二十名。長谷川きた子氏の談話ありたり。

▽麹町三番町四十一青年會に於て午後二時開會、來會者十五名、二宮貞子氏の談話ありたり。

▽青山南町七丁目青山女學院に於て午後一時開會、來會者七十五名ミス、ペーヂの談話あり。

▽小石川區高田老松町五〇ミス、アズボーン方にて開會、來會者二十名。ミス、マシユウの談話ありたり

▽芝區二本榎西町二、ミス、ウエスト方にて開會、來會者十名、講話者ミス、マグドナルド

▽京橋區築地立敎女學校にて開會、來會者五十名ミス。ヘーウード、黑川愁子、陶みよ子、梅澤かれ子諸氏の談話ありたり。

◎米子基督敎女子青年會

一月十九日（金曜日）午後三時より四十五年度役員改選并常集會開會、當日は烈しき降雨にも拘らず二十餘名の會員列席し、此度德島地方より再び歸られし倉敷姉司令の下に、讃美歌三百二十二番交際一致の歌を以て始め、伊木道子姉我等の生涯の萬事は、皆神に依賴すべき事につき、ダビデ王の生涯の槪略を以を實例となし、有益なる勸話ありし後、ギレスピー會長の祝禱を以て、一先づ此の會を閉ぢ、後新らたに會長の司會を以て役員の改選に移る、其の結果會長ミス、ギレスピー、會計武內かね子姉、書記倉敷昇子、津村あい子の兩姉、慰問係戶田孝子姉、其の他女學校に於ては各組々に一名宛代表者たるべき者を選擧し、女學校の種々なる出來事を通知する役目に當てたり。當會々員數は四十名、（內正會員十二名 會友二十八名）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廣告

院長診察（月、水、木、金、午前
（入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局 八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長 醫學士高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱
從停車場半里

電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

National Committee

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. T. Inonye, Treasurer
Miss Michi Kawai, Member World's Committee
And World's Student Christian Federation

Resident Members
Miss A. B. West
Miss Sumi Miyagawa,
Miss Hama Hirano
Mrs. Koharu Nakajima
Miss Uta Suzuki
Miss Sarah Ellis
Miss Matsu Okonogi.
Mrs. A. M. Fisher

Non-Resident Members
Mrs. K. Araki, Osaka
Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss M.F. Denton, Kyoto
Miss Wynne-Willson, Nagoya.
Miss M. Brownlow, Hakodate.
Miss K. Tristram, Osaka
Miss Worthington, Kure.

Miss A. C. Macdonald, General Secretary
Miss Margaret L. Matthew, Tokyo Secretary
Miss G. R. Watoney, Tokyo Secretary.
Headquarters 41 Sanbancho, Kojimachi, Tokyo.
Miss Matsu Okonogi, Editor.

部數	定價（郵稅共）	海外	廣告	
一部	金五錢	金九錢	一頁 金六圓	半段 金貳圓
十二部	金五拾錢	金壹圓	半頁 金三圓五拾錢	一行 金貳拾錢

明治四十五年二月廿八日印刷
明治四十五年三月一日發行

發行兼編輯人 東京市麴町區三番町四十一番地 エー、シー、マクドナルド
印刷人 東京市神田區美土代町二丁目一番地 島連太郎
印刷所 東京市神田區美土代町二丁目一番地 三秀舍

新刊

小山鼎浦著

久遠の基督教

菊判クロース 四百二十頁 定價壹圓

小包送料 東京市内四錢 地方十二錢

著者は希臘思潮と佛教意識と基督教的信仰とを一心に融會せんとする第三王國の仰慕者なりき而かも羊腸の路を辿りて今や高嶺の一角に立ち耶蘇その人の宗教に於て久遠の光明を發見し得たり本書は其實驗に基いて基督教の本義を説ける一大獅子吼也

文學博士波多野精一著

基督教の起源

久しく品切の處第三版出來

定價九十錢 郵税八錢

小崎弘道著

基督教の本質

最も秩序的に基督教を解明したるもの

定價壹圓 郵税八錢

發兌 東京市京橋區尾張町 振替東京五五三 警醒社書店 本郷春木町二丁目 同支店

明治四十五年三月一日納本發行(毎月一回一日發行)

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

Meiji no Joshi

Volume. IX *March 1912.* *No. 3*

Circumstances. **Miss Miyo Kohashi.**

Teaching for the Home. **Rev. Tsuneteru Miyagawa.**

Strength in Weakness. **Mr. Seizo Abe.**

Young Women of Today. **Miss A. C. Macdonald.**

Fanny J. Crosby. **Miss Matsu Okonogi.**

Salvation as Taught by Jesus Christ.
Rev. En Kashiwai.

The Holy Grail. **Mr. T. Shirai.**

Association Notes.

Arrival of New Secretaries, National Committee Meeting, World's Penny, Tokyo Y. W. C. A., Yonago Y. W. C. A.,

The Official Organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan

(東京神田美土代町三秀舍印行)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA